



2000.3.3
第111号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
遠藤 久夫
編集協力
沼田 昭
北会津・耶麻・両
地教委・連格協
小・中 学校 長

M男の生きる力

福島県教育庁会津教育事務所(業務)次長 佐藤 信高



教え子の同級会に向かう新幹線の中で、M男を思い出す。「自分の力で生きる。」と電話を切った。以来、M男との再会に胸が弾んだ。
M男は、二五年前、七年間勤務した東京都郊外のN小学校で、最後に担任した六年二組の児童だった。彼は、小学生がやりうるほとんどの非行をしていたが、同級生たちからいじめられてもいた。両親離婚、家庭崩壊、簡単にキレる子供でもあった。歩きながら誰彼かまわず鉛筆で突き刺す彼を捕まえようとどしゃ降り、の校庭で駆け回っているうちに、私は、彼が愛情に飢えて心の渇きを癒そうとしていることを知った。その後、私の対応が変わった。やがてM男は、学校から逃げなくなり、学習発表会では劇の主役をやり遂げるなど落ち着いてきた。それでもフォローが必要だった。M男たちの卒業式を終えると、私は福島県

に転勤となった。心の居場所を求めるM男に対して、転勤した郡山から、毎日中学校では施設で励まし続けた。安定剤のクスリ漬けとなった。彼に逢う度に生ける屍のような姿を見て、私は驚異もなかった。彼は就職してもトラブルが絶えず、それとなく後始末をしていた。電話が頻りに来るようになって、M男は私に頼ることしかしなくなったことに気づいた。このままでは自立できなくなってしまうという思いが高まり、M男にとって必要なことは、彼を放すことだと考えた私は、「死ぬ直前しか電話を寄こすな。」と突っぱねた。
あれから十年以上の歳月が経っていた。初めての同級会に、M男は二次会から出てきた。今は、小さなビルのガードマンをしていて、仕事で遅くなったという。「先生、歌って」としきりにマイクを向けられ困っている私を見て、代わってM男が立ち上がった。「上を向いて歩こう。涙が

こぼれないように……」と一人で歌い始めた。歌には自立への思いが込められていた。M男を除いてはじめていたT夫が「悪かった。」と涙を流し、やがて全員肩を組んでの合唱となった。同級生の心は、二五年後に一つに溶け合った。「もうM男は大丈夫ですよ。」と言うS子の言葉に送られながら、タクシーで団地までM男を送った。私の乗ったタクシーに手を振り続けるM男を後にして、「彼の生きようとする心を信じていてよかった」という思いが目に溢れた。「上を向いて歩こう……」と耳に残る歌をたどりながら、突き刺された鉛筆の芯が幾つも残った手のひらを、暗いタクシーの中でかざして見た。
二一世紀に生きるこれからの子供たちにとって、「生きる力」を培う土台は、自ら生きようとする内発的な自立への思いを育むことだと、二五年前かけてM男の姿に教えられた実感である。

各種受賞紹介

(敬称省略)

- 文部大臣表彰 (敬称省略)
 - ・地方教育行政功労者 加藤 孝雄
 - 河東町教育委員会教育長
- 教育者表彰
 - 会津若松市立鶴城小学校長 新國 正明
 - 地域文化功労者芸術文化功労 渡部 恵司(喜多方市)
 - 社会教育功労者 元山町公民館長 阿部 裕
 - 視聴覚教育功労者 元会津若松市コンピュータ教育推進委員会副委員長 石井 守
- 学校教育表彰
 - ・学校給食表彰 喜多方市立第一小学校
 - ・学校保健・学校安全表彰 三島町立三島小学校、三島中学校学校保健科医 栗城 昭吉
- 県教育委員会表彰 (芸術部門)
 - ・文化功労賞受賞者(芸術部門) 渡部 恵司
 - ・地方教育行政功労者 前会津若松市教育委員会教育長 宗像 精
 - ・学校教育功労者 会津若松市立第一中学校長 齋藤 常修
 - ・社会教育功労者 元西会津町公民館長 齋藤 宏一
 - ・芸術・文化財保護功労者 昭和村文化財保護審議会委員長 馬場 勇伍
 - ・文化関係功績者な団体 会津詩人協会
 - ・保健体育功労者 朝倉多布立南小学校他一校学校医 大竹 喜理
 - ・保健体育関係功績者な団体・施設 三島町立三島小学校
- 第五十回学校関係緑化コンクール
 - I 学校環境緑化コンクール
 - ・知事賞、福島県友新聞社社長賞 柳津町立西山小学校
 - ・福島県緑化推進委員会会長賞 会津若松市立大戸小学校
 - II 学校緑化推進委員会理事長賞
 - ・福島県緑化推進委員会理事長賞 塩川町立堂島小学校
 - ・塩川町立活動鳥小学校
 - ・関東森林管理局長賞 西会津町立野沢小学校
- 第四十三回よい歯の学校表彰
 - ・特別優秀校 喜多方市立豊川小学校
 - 会津高田町立永井野小学校
 - 三島町立三島小学校
 - ・優秀校 喜多方市立第一小学校
 - 塩川町立塩川小学校
 - 山都町立山都第二小学校
 - 高郷村立高郷第一小学校
 - 高郷村立高郷中学校
- 日本体育・学校健康センター福島県支部表彰
 - ・学校安全優良学校 会津若松市立大戸小学校
- へき地教育関係功績者な団体・施設
 - 西会津町立奥川小学校
 - ・特別功績者 会津若松市立一葉中学校
 - ・教諭 吉田 裕子
 - ・永年勤続教職員 二十名
 - ・福島県教職員研究論文入賞者 特選 喜多方市立第一小学校
 - 教諭 川井 孝寿
 - 入選 会津若松市立城西小学校

私の実践

第二学年、九月の「夏のできごと」を話します」の単元において、「話すこと、聞くこと」をテーマに次の実践に取り組んだ。

一、単元開発の工夫

子どもたちに人気のあるテレビのアニメキャラクター「忍者開き丸、はつきり君」になって、話し方・聞き方の術を修行し、お話会に臨むというストーリーを設定したことで、楽しく活動に取り組むことができた。

二、聞き手を意識した話し方

「わくわくの術」聞き手を引きつける話し方を身に付けようと、児童は、動作をつけたり、実物

単元で遊び、生活で生きる

〈国語科における音声言語指導〉

金津若松市立門田小学校教諭 湯田祥子

を有効に使ったりしながら話をし、聞き手を意識した話し方を工夫することができた。



『わくわくの術』を使って話す児童

三、楽しく聞くことができる工夫

友達とペアやグループを組んで話に対するインタビューストロールをしたり、学級の枠を外し、違うクラスの友達とのお話を

したりすることにより、「聞く」活動に対して積極的になった。四、意欲を持って話せる工夫

話すためのメモを「巻物」にしたり「お話ウマイク」(上手にはなせる魔法のマイクを使ったりすることに)により、話すことに抵抗のあった児童も喜んで「ウマイク」を持ち、自分から話そうとする姿が見られた。

このように児童が遊び感覚で学んだ「話す・聞く」活動は、自然に生活の中で生かされていくように思う。

生涯学習だより

今年度、北会津村では地域教育力の向上を目指して本事業に取り組んできました。

まず、モデル事業の実施のために推進委員会と実施委員会の二つの組織を作り、推進委員会では事業計画を作成し、実施委員会では事業の実践をするという形をとりました。

推進委員会の計画をもとに、実施委員会では今年度次の二つのことに取り組んできました。



〈縄文体験～石器で魚をさばく様子～〉
県立博物館 長島先生

しました。学校では、この生涯学習応援隊と役場職員による出前講座を授業に積極的に取り入れてきました。先生以外の人が授業を行うというところは、子どもたちにとってはとても印象深く貴重な経験となっています。

一つめは、学校教育現場で地域の人材を活用することです。そのために、公民館では、自分の特技をボランティアで指導してくれる人を募集して「生涯学習応援隊」という人材バンクを整備

二つめは、文化・スポーツクラブの育成と児童・生徒の受け入れです。これは、本村の各クラブが抱えているメンバーの固定化・高齢化という課題の解消を目指して実施しました。指導に重きを置くのではなく、あくまでも共通の趣味を子どもたちと一緒に楽しむというスタイルで活動しています。

子どもへの加入があったクラブの話や「活動が楽しくなった」という意見が多く、マンネリ化していた活動に刺激を与えることができました。この経験を子どもたちが将来大人になった時、各クラブに正式に加入してくれることを期待しています。

これからも北会津村の将来を担う子どもたちのために、学校と行政と地域が協力して何ができるかを考えていきたいと思っています。

地域に学ぶ

大杉の木立の指す寺がある。嘉祿三年、法然上人の高弟隆寛律師は、



〈木造阿彌陀如来及び両脇侍坐像〉

嘉祿の法難により奥州に流された。途中、相模の飯山で没し、弟子実成が、隆寛の遺骨を上三宮町に葬り願成寺を建立し、東北地方の浄土宗の中核として栄えた。その後一時荒廃したが、寛文五年に入田付光徳寺住職行誓が、藩に願い出て現在の地に再興した。

願成寺といえは、何と云津の大仏つゝあまと呼ばれている木造阿彌陀如来像が余り

訪れるのなら、いつの時期でも「会津の大仏つゝあま」は温かく迎えてくれるが、梅雨の合間の紫陽花の花が咲くころをお勧めしたい。入口の山門、境内の「心字の池」も一見の価値あり。社会変動が著しく何かと心忙しい昨今、心静かに「会津の大仏つゝあま」に手を合わせるのもよいのかも。〈会津〉。

叶山願成寺

喜多方市教育委員会

二千年問題で揺れた今年の年明け、NHKTVの「ゆく年くる年」で全国放送されたのが、古刹浄土宗・叶山願成寺(かんじょうじ)である。

この阿彌陀如来は両脇の観音菩薩像、勢至菩薩像と合わせて弥陀三尊像とし、国の重要文化財になっている。

願成寺は、喜多方市の西北、熱塩加納村に接する上三宮町にあり、町の中心部から北に延びる市道を進むと極く、

中尊の阿彌陀如来像は、高さ二百四十一センチメートルの堂々とした坐像で、千体仏をつけた舟形光背を背に金色に輝いている。上品下生(じようほんげしよ)う・仏像の両手の形の二種の米迎印相で二重蓮台の上に結跏趺坐(けっかふざ)あぐらをかいたような坐り方)をしている。

私の抱負

新年の抱負

奥津町立久保田小学校

校長 目黒 真一



「新年明けましておめでとーう」三学期始業式での私の第一声です。八人の児童路々

が、今年の希望・抱負を述べました。「文字がもっと上手に書けるようになりたい」「算数がもっと分かるように勉強したい」「身の回りの整頓をきちんとできるように努力したい」等。

さらに輝いて

西会津町立奥川中学校

教頭 児島 正志



「春雪深き飯豊に」と校歌にあるように、飯豊山の麓にある素晴らしい自然環境の中、二十六名の明るく、素直な生徒たちと毎日充実した学校生活を送っている。

西会津町の中学校四校が平成十四年度に統合が予定されており、本校も長い歴史に幕を下ろす。残りの期間、奥中生であること誇りに思い、伝統ある奥中の名をさらに高めながら、生徒と共に磨きをかけさらに輝く奥中にしていきたいと思う。そして、教師の和を大切にしながら、たくましく力強く生きる生徒の育成のために精一杯努力していきたい。

ゼロからのスタート

会津若松市立第五中学校

教諭 高木 明



「高校時代に男声合唱部に入部したことが音楽の道を選択する動機となった。ピアノはそこそこ弾けたが、専門的な知識は全くないままに音楽の道へ進むといういわば、ゼロからのスタートであった。」

そして、念願の教職に就き、ここでもゼロからのスタート。そのときそのときの生徒との出会いを価値あるものにするために、自分が本当に好きな音楽の楽しさを少しでも伝えたい一心で努力しているつもりである。私は、今まで巡り合った先生や環境に大変恵まれ、そのおかげで今の自分があると思う。恩返しのためにも、生徒が目指す道に進めるように少しでも役に立てるような教師を目指していきたい。

心に残る人々



身障児童から学ぶ 猪苗代町教育委員会教育長 引地 善美

今を去る二年前の三月、バス停で道路横断中、交通事故にあい、両足大腿部損傷した身体障害児S君の学校生活である。

S君は身体障害をバネにして、何事にもチャレンジ精神をもち、全力で取り組み遂行する行動に対し級友は勿論、教育関係者に大きな感動と勇気を与えてくれている。特に階段の昇降はエレベーターの設置を断り、自力で昇り降りしている。また、両手と足の大腿部を駆使し、健常児顔負けのスキー、マラソン、さらに

「五体不満足」を購読し、大変感銘し感想を含めた手紙を乙武氏に書いている。「僕は、乙武さんのように、中、高校を普通学校で頑張る、何事にもあきらめず挑戦して、乙武さんを目指して頑張る。多くの人々が僕を支えてくれたことに感謝したい。」とも書いている。



諏訪神社の樹木
会津坂下町立第二中学校
二年 齋藤 彩乃

「指導の工夫」
坂下第二中学校では、毎年校内写生会を実施している。初秋の空の下、校外でのびのびと活動できるこの活動を、生徒たちは楽しみにしている様子だ。
手前に見える神社内の樹木を中心に、奥行きのある空間を表現している。特に樹木の描写には注意を払い、生命力あふれ、立体感のある表現をすることができた。
指導者 白坂 充生

作品と指導

工作



ビー玉のさんぽ
塩川町立建堂小学校
三年 齋藤 さつき

「指導の工夫」
「自分がビー玉だったら、どんなところを散歩したいか」を考えて「ころん」という声かけから始めた。
花好きなきつきさんは、真っ赤な大きな花を真ん中に立て、さんぽコースをどうするか迷っていた。
さつきさんの思いをさくりながら支援したことにより、明るい暖かみのある作品になった。
指導者 大堀 定子



おむすびころりん
磐梯町立磐梯第二小学校
一年 日下 慈子

「指導の工夫」
気に入った色の画用紙を子どもが選び、耳を澄ましながら破いて遊ぶ。破いたときの音やくしゃくしゃの紙から情景などを想像した。そこから、国語で学習した「おむすびころりん」の穴の中の様子へと思いを膨らませた。
食料を貯えたり、みんなで積み木をしたりして遊ぶ楽しそうなねずみたちの様子が表現されている。
指導者 齋藤 スミ子